

## 04 開放的にしてユニーク!! 自由な発想でつくる“OLDK”。

実家の敷地に離れとして建っていた鉄骨造の住まいをリノベーション。改装前の構造を活かしながらもLDKにあたる2階部分をフルスケルトンにし、かつての3LDKからOLDKに生まれ変わらせた。「家族がのびのびと暮らせる開放感も、子どもたちの個室も妥協しなくて」。小川さんの親心を実現するため、広々としたフロアに3つに仕切られたキッズルームを造作。さらには屈強な鉄骨造に目線を遮る柱は必要なく、部屋に飾られたヴィンテージギアもよく映える。「ヴィンテージが好きな理由は唯一無二だから」。そう語る家主らしく、住まいの造りもユニークだ。

**Yoichiro  
Ogawa**

小川洋一郎

自営業

取材協力：ハグホーム <https://hughome.net/>

居住地域：埼玉県春日部市  
居住形態：一戸建て  
間取り：OLDK+ロフト  
居住年数：1年6か月  
築年数：18年

Photo/Chie Kushibiki Report & Text/Kyoko Oya



家族一緒に楽しむアクティビティとしてキャンプを始めたのをきっかけに、ヴィンテージギアを収集。ギアは籠の市などで探すことが多く、タフなメタルシステムのラックに収納している。



小川さん宅はクルマ好きが憧れるビルトインガレージ。愛車は2014年式のジープ・ラングラーアンリミテッド。「ラングラーの購入をきっかけにキャンプを始めようなものです」と笑う。



1.こちらが開放的なLDKの一角に設けられたキッズルーム。しっかりと仕切りながらも天井には隙間を残し、プライベート感と家族の一体感を両立。将来的にはキッズルームの仕切りを外すこともできる。2.LDKの一部はキャンプ好きのニュアンスが漂う板壁に。外壁に用いられる板を使用し、3種類ものステイン塗料を塗布。程よくエイジングされたイメージに仕上げると同時に、白壁とのコントラストも絶妙だ。



3.鉄骨造の梁はマットブラックに塗装し、ダクトレールを設置。鉄骨だからこそ、ハンモックを筆頭に植物をふんだんに吊るしても余裕の屈強さ。ちなみに手前に見える円形のテーブルは、リノベーションを手掛けたハグホームのオリジナル。4.ウッドやタイルにステンレスといった異素材がバランスよくミックスされたキッチン。壁に設けた小窓が抜け感をプラスし、グリーンタイルがモダンなアクセントに。



8.庭の植物用ラックはコンクリートブロックを脚にしたDIY。屋内のグリーンと合わせると50株近くを育てているそう。9.玄関のベンチにも植物がディスプレイされ、その隣はリビングにもセットされていたローンチェア。10.リノベーション前からロフトのある構造だった小川さん宅。かつてのハンゴで登る仕様から階段にチェンジし、マットブラックの階段が白壁や植物のナチュラルな印象を引き締めている。



5.グリーン好きの小川さん。ダクトレールからメッシュパネルを吊るし、流木やドライフラワーをディスプレイ。6.ギアが収納された壁の反対側はプロジェクターを投影するためのスペース。こちらのイスに腰掛けて映画やスポーツ中継を見るのが家族の日課だが、右はローンチェア、左は米国の映画館で使用されていたヴィンテージ。7.広々としたロフトも備え、奥に見えるレコードラックは家主のDIY。